

第67回企画展

むかしの稲作（収穫）

～ 写真でみる昭和30年代の収穫作業 ～



平成28年1月7日(木)～平成28年3月25日(金)

岩手県立農業ふれあい公園 農業科学博物館

戦後の農村は、極端な食糧不足の状況にあり、農家は国家の急務であった食糧増産に意欲を燃やした時代でした。

岩手県は、昭和30～31年に農林省の委託を受けて県下10か所の稲作作業方法を写真で記録しており、当農業科学博物館でその調査記録簿を収蔵しています。

今年度は、企画展のテーマを「むかしの稲作」として、今まで「育苗」「田植」「本田管理」を紹介してきました。最終となる今回は「収穫」について取り上げます。

旧暦の8月になれば稲穂は揃い、黄金の波がただよい、十五夜がすぎると稲刈りが行われ、棒掛けやはせ掛けで乾燥し、脱穀にかかり、粳摺りした玄米を俵に入れて供出（出荷）しました。

当時の米は国の管理下におかれ、農家は法律によって一定量の米を納めなければならないことになっていました。その量を指定された日に、指定場所に納めることを供出、納める米を供出米といいました。

昭和30年代の農作業は手作業が主で米俵製作ひとつをとっても、藁しごき、縄ない、俵編み、俵まるき等、細かな手作業の連続でした。

今回の企画展では、写真や実際に用いられた農具から、先人の^{てかず}手数をかけた米づくりへの思いを学ぶ機会とします。



岩手県立農業ふれあい公園
農業科学博物館

北上市飯豊 3-110 TEL:0197-68-3975

開館時間／9:00～16:30(入館は16:00まで)

休館日／月曜日(月曜日が祝日の場合は直近の平日)

入館料／一般300円 学生140円 高校生以下は無料

団体割引等(20名以上)あります

駐車場／大型バス12台 普通車240台 身障者専用5